

# のり 法の泉 いずみ

## ■ 楽曲データ

歌詞：江間章子 作詞

楽曲：片岡良和 作曲

発表：－

初演：－

初出：－

管理番号：M1499

## ■ 創作の経緯

作曲年代等、詳細不明。資料の状況から、遅くとも1966（昭和41）年までには発表されていたと思われる。

## ■ 校訂報告

校訂譜：『聖歌・讃歌集』第2巻収録

底資料：『佛教讃歌2』 真宗大谷派 1966年

比較資料：－

校訂の詳細：特になし

## ■ 解説

《法の泉》は、仏教讃歌では珍しい、お座敷歌のような節回しの作品です。メロディーは少し難しいかもしれませんが、歌うだけでなく、振付を考えて踊ってみるなど、いろいろな形で親しんでいただければと思います。

### ◆ 楽曲について

作詞は、《夏の思い出》の詞で知られる詩人・江間章子さん（1913～2005）。作曲の片岡良和さん（1933～）は僧侶であり、地元・仙台を拠点に、作曲家・指揮者として活動しています。

親鸞聖人のご生涯には、み教えを深められる契機となった出来事がいくつかあります。そのなかから、この作品には、越後へ流罪に処せられた「承元の法難」が詠みこまれました。作詞者にとっては、この場面がことさらに印象深かったのかもしれません。

「禿」は、剃髪もせず結髪もしないさまのこと（『註釈版聖典』巻末註1461頁）。自ら愚かな存在と示された親鸞聖人のお心に思いを馳せながら、歌ってみてください。

## ◆演奏のヒント

フレーズ冒頭の八分休符でしっかりタメをつくって、歌い出します。付点のリズムや十六分音符の揺れなど、装飾的な動きに味があるので、歌い飛ばさないようにしてください。また、ところどころにある高い「ミ<sup>h</sup>」の音を、半音低い「ミ<sup>b</sup>」とはっきり区別して、高めにとるようにしましょう。

伴奏譜は、楽譜集『聖歌・讃歌集』第2巻（本願寺出版社刊）をご参照ください。

山口篤子（浄土真宗本願寺派総合研究所研究員）

※本解説は、「メロディーの宝石箱」（仏教婦人会総連盟機関誌『めぐみ』第232号収録）を加筆・修正のうえ、転載。

Copyright: Jodo Shinshu Hongwanji-ha Research Institute. All Rights Reserved.